

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第919号 平成27年4月23日

札幌視覚支援学校

旧有朋高等学校の跡地に「札幌視覚支援学校」が建設され、本年4月に開校しました。

この学校は、視覚に障がいのある子ども達に対して幼稚部から小・中・高等部までの一貫した教育を行う特別支援学校です。

また、高等部専攻科では、鍼・灸・あん摩マッサージ指圧師の国家資格の取得を目指した理療教育を行っている他、卒業後、理療業に従事している視覚障がい者の研修・相談等に応じる「附属理療研修センター」を併設しています。

このように、幼稚部から小・中・高・専攻科、更には附属理療研修センターまでを備えた視覚特別支援学校は他の都府県に例はなく、全国から注目と期待を集めています。



私自身は、乱視のせいで視力が良くない事に加え、最近では老眼も進んでおり、物を読んだりする時はメガネをはずし、自動車を運転する時はメガネを着けるといった具合ですが、物が見えなくて困るという事はありません。

先天的な視覚障がい児・者と比べると、中途失明者の場合には周囲の状況を理解したり、判断したりする事がより難しく、主体的な活動や行動等にも困難性を抱えている方が多いといわれていますが、私も今目が全く見えなくなってしまうたら、一人では何も出来ないだろうなと思っています。

視覚障がい児・者は、その持っている視機能を活用するだけでなく、聴覚や触覚等の感覚をも最大限に活用して活動していますので、「札幌視覚支援学校」においては、

- ・音楽コンサート及び能や歌舞伎を初めとする日本の伝統文化等の鑑賞や芸術体験、
- ・登山やラフティング等の自然体験、
- ・田植えや稲刈り、家畜の世話といった農業体験等のフィールドワークを通じた概念形成の促進

等に積極的に取り組む事としています。

札幌視覚支援学校は、昭和25年8月に伏見に開校した盲学校を前身としており65年

の歴史を重ねて来た事になります。

この盲学校は、昭和49年に小中学部と高等部が分離独立し、小中学部は江別市大麻に新校舎を建設し「札幌盲学校」として新たに開校、高等部のみが伏見に残り「北海道高等盲学校」として視覚障がい者のための後期中等教育を担って来ました。

そうした幾つかの変遷を経て、今新たに、視覚障がい者が生涯にわたって学ぶ事の出来る、全国有数の教育施設が誕生しました。

障がいのある子ども達に対する教育は、平成19年に特殊教育から特別支援教育へと大きく舵が切られました。それは、障がいの種類と程度で就学の場が決定されるのではなく、障がいのある子もない子も共に学ぶインクルーシブ教育の理念の下で、それぞれの子ども達の能力を最大限発揮させようとするもので、我が国における教育全体の在り方を大きく変える事になりました。

そうした中で、この度、就学前から就学後までを視野に入れた、高度で専門的な視覚障がい教育機関として新たに「札幌視覚支援学校」が開校した事は誠に意義深い事であり、今後、本校が我が国における視覚障がい教育の先導役として活躍される事を、大いに期待しています。

(塾頭：吉田 洋一)